

# 「画題」について

## ——日本絵画の題名——

島 尾 新

- 
- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. はじめに          | 5. 「画題」の世界 |
| 2. 肖像画の題名        | 6. 現在の状況   |
| 3. 「源氏物語絵巻」      | 7. おわりに    |
| 4. 「寒山拾得」と「瀟湘八景」 |            |
- 

### 論文要旨

「名称」は、もっとも短い絵画についての記述である。それをいかに記述するか、また、従来の「名称」がいかなる情報をもっているのかを考えることは、より詳細な「画像の情報化」を考える上でも必要である。

データベースという面から見ても、絵画作品の「名称」は、「作者」「所蔵者」「形状」「材質・技法」「法量（寸法）」などとともに、基本的なデータフィールドの一つとなることは間違いない。しかも、このような基本的なデータベースにおいて、絵画の「画像」としてもつ情報を反映させ得るフィールドは「名称」しかないのである。

本稿では、江戸時代以前の絵画を対象として、「題名」のもつ性格と機能について概観する。それは、「画像」と「言語」あるいは「かたち」と「ことば」の関係についての一般理論が提供されているとは言い難い現状のなかでのデータ形成を考えるための諸条件・あるいは前提を確認する作業である。